

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172000283		
法人名	株式会社 道央ケアセンター		
事業所名	グループホーム つつじ		
所在地	小樽市朝里川温泉2丁目694-13 電話 0134-51-4830		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年 3月 13日	評価確定日	平成20年3月28日

## 【情報提供票より】(20年 3月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 5月 14日		
ユニット数	2	利用定員数計	18 人
職員数	20人	常勤5人, 非常勤15人, 常勤換算8.4人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	~1・2	階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,5千円~3,7千円	その他の経費(月額)	20000円
敷金	無		冬季暖房費 8,000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

## (4) 利用者の概要(3月13日現在)

利用者人数	17名	男性 4名	女性 13名
要介護1	4名	要介護2	6名
要介護3	7名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 84.9歳	最低 70歳	最高 95歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	東小樽病院、中垣病院、朝里整形外科・内科、朝里病院、野口整形外科、夜間救急センター
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺住宅が極端に少ない温泉街の一角にあるグループホームつつじは、同敷地内の3つのグループホームのひとつで最初に開設されています。ホームでは、各ユニットをひとつの町内と称して、合計7つの町内での交流を試みるなど、ユニークな特徴を見ることができます。また、地域の小学校で行なう行事、とりわけ運動会のプログラムに利用者の参加と出番を配慮してくれるなど微笑ましい交流も見ることができます。管理者及び職員は、利用者の残存能力を暮らしの中に引き出す努力が日々行なわれており、職員のスキルアップを目的とした研修会の年間参加予定表を作るなど、法人の積極的な姿勢を見ることができます。暮らしの中では職員がポリシーをしっかりと認識して、利用者に対する親身な声掛けを聞くことができます。周囲の自然豊かな環境にあって、ゆったりとした時の流れが利用者の暮らしを豊かなものになっています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題であった介護計画の個々の記録整備は、フロー会議の中で協議、改善されています。地域への啓発事業及び家族に向けての報告は一応取り組みが見られますが、会報作りへの取り組みは今後に残されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の作成では全職員が気づきなどを寄せあいながら作成されて、関心の高さが見られます。項目の88番「サービスの成果に関する項目」についても、ミーティングなどを通して再度の検討も予定されています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 毎回の会議内容から、熱心さが覗えます。ホームの状況説明に加えてノロウイルス、インフルエンザ予防対策など、医師を招き学習会をするなど、重要かつタイムリーな内容となっていますが、参加メンバーの固定化が懸念されますので、メンバーの幅を拡大して多くの方々の出席を願いながら意見の交換を期待します。また自己評価・外部評価での取り組み状況を改善計画シートで示しながら意見を頂くなどの配慮を期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が訪問時の会話及び「意見箱」の設置などで、家族が抱く意見や要望を聞き出す努力はしていますが、あまり効果的ではありません。家族の意見・要望を引き出しやすくする方法のひとつに利用者の状況をつぶさに知らせる情報の提供があります。会報づくりと利用者個人の状況報告も大切な要因と思慮し、運営への反映に繋がるよう取り組みを大きく期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 一般住民が極端に少ない地域にあって、地域との交流・連携は難しいものがありますが、小学校の児童達との交流や近隣のホテル関係者のお付き合いなど徐々に増えています。近所で行なわれる秋の収穫祭、お祭り、またホーム菜園への訪問、災害の避難訓練への協力などに利用者も参加しての交流があります。今後は認知症への理解を求める啓発事業を通して地域との連携を深めようとしており、その取り組みに期待します。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての運営理念のほかに、ケアサービスを支える職員が目標とする五つのポリシー（方針）が判りやすく取り決められており、日々実践されていますが、地域の中でその人らしく生活することを支える地域密着型の関係を謳った文言には至っていません。	○	住宅街から離れた温泉地区にあって、近隣のホテル従業員や小学校の先生、児童らとの連携を深めるなど、限られた地域の条件化で交流が続けられており、地域に根ざした暮らしを支える文言をポリシーに加えて一層の取り組みを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	五つのポリシーは、日々のケアの中で実践に向けての取り組みがされており、申し送りやユニット内の研修会でも常に確認し合う体制が取られています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の役員や近隣のホテル、特養施設との交流のほか、小学校の先生の理解を得て児童との交流は盛んに行なわれています。運動会では利用者も参加できる競技をプログラムに入れて頂き参加するなど、地域とのお付き合いが徐々に増えています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者始め職員のすべてが参加して自己評価が行なわれており、職員一人ひとり関心度は高く、昨年からの懸案項目についても、一部に未完成（家族向けの会報の作成）はあるものの、着実な取り組みがされています。		

小樽市 グループホーム つつじ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の役員、地域の民生委員、小学校の先生、家族の代表などが集まり2ヵ月ごとの開催がされており、ホームの状況、行事、ノロウイルス感染予防対策などの話し合いが行なわれていますが、メンバーの固定化と協議内容の広がりが少なく、なっている傾向にあります。	○	従来の協議内容に加えて、地域への広がりや認知症に係わる広報及び理解を得るため、お集まり頂たくメンバーの幅を拡大して、婦人会、商店会などへの働き掛け、また、自己・外部の評価項目を明示しながら、改善に向けた取り組みを知らせ意見を頂くなど、会議の内容拡大への取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に介護保険の書類に関する相談が市の窓口で行なわれてきましたが、認知症への理解を拡大するためのキャラバンメートの利用、感染症予防や、ホーム内の事故防止に係わる協議など、市との連携について計画されています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時での話し合いに加えて、2週間ごとにお預かりしている金銭の内容報告がされており、近況報告も併せて送られています。内容的に利用者一人ひとりの様子、状況を知る上では十分とはいえません。また、ホームの様子を知らせる定期的な「ホーム便り」が作られていません。	○	家族にとって、利用者のホーム生活、とりわけ暮らしの中での表情に関心が大きいものがあり、電話だけではなく職員が垣間見る利用者の表情、話し合いの内容など写真を加えて知らせる取り組みを望みます。また、ホーム生活を知らせる懸案の「お便り」の作成への取り組みを大きく期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及び職員は、家族等の意見をホーム運営に反映させようと努めています。また、家族の意見、苦情などを聞くホーム窓口設定のほか、第三者の窓口の紹介もされています。ホームには「意見箱」を置いています。あまり利用されおらず、訪問時などでも意見、要望は聞かれない状況にあります。	○	家族に対して「何かありませんか？」の問いかけでは、答えを得るには困難です。家族は職員との会話を望んでいることを認識しながら、会話のスキルアップへの取り組み、また、会報を通して具体的な事例を提示しながら家族と一緒に考える工夫などを試み、運営に反映させる取り組みを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	パート職員、及び、夜勤専属の職員のユニット間の異動、また、隣接のグループホームとの異動などもありますが、利用者との馴染みの薄弱を解消するため、異動後も利用者や職員の会う機会を頻繁にしています。とりわけ夜勤専属の男性職員は、夜間だけでなく昼間もホーム内の清掃や食事作りに従事するなど、利用者との馴染みを増すよう工夫がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを目的に内部研修は度々行なわれています。パート職員が多いこのホームでは資格の取得を推奨しながら、外部への参加を考慮して年間の受講計画が作られて実行されています。年数によりパート職員にも管理者研修の機会を与えてサービスの質の向上を目指しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に加入して情報の取得に努めているほか、函館、帯広、伊達といった遠方のグループホームへの視察研修をして学んでいます。また、ホームに視察に来られるほかのグループホームもあり相互訪問と交流により職員のスキルアップに役立っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の申し込みがあった際には、急がず時間を掛けて幾度もホームへの訪問をお勧めしています。見学の際も職員を紹介するなど馴染めるよう心掛けて家族とともに食事もして頂くなどしています。家族の宿泊のためゲストルームも用意して遠方の家族に喜ばれています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の体験されてきたこと、また、生活の知恵などを教えて頂くことは利用者の自信回復につながるものと考えて、職員は一緒に過ごす時間を楽しんでいます。調理方法、ことわざ、書道教室の開催などともに学び、ともに支え合う関係作りを心掛けて支援をしています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴を熟知するようにして暮らし方、希望、意向の把握に努めています。家事や余暇活動などにも職員はきっかけ作りをして、会話の中から利用者の思いなどを把握するようにしています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活情報や家族からの意向を聞きながら、本人一人ひとりに合った介護計画書の作成を職員全員が参加して作りあげるようにしています。利用者の状況の変化や暮らしの中での気づきを大切にして対応するように努めています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画のプランは3ヵ月を目途に見直されています。ADL表による評価と集計、プランに添った支援の検証及び現状の様子などをサービス担当者会議での活発な協議で見直しが図られています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方より訪問された家族には、宿泊用のゲストルームを提供したり、家族の事情により病院への送迎などホームが有する多機能性をフルに生かして支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院からは1週間に1度の訪問受診が行なわれています。また当該病院の看護師とは連携を深めており、各種の相談に対応して頂いています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況により重度化した場合には、掛り付け医及び家族と相談していますが、看取りを含めた終末期のあり方への方針が作られていないため、一貫した共有には至っていません。	○	ホームの運営方針の中で、重度化にどのような体応ができるかを検討する必要があります。それら対応の方針をホームを中心として家族は勿論、掛り付け医と日頃から話し合い確認しあうことが大切ですので、ホームとしての方針作成への取り組みを望みます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重、敬愛しながら支援を心掛けています。従来、訪問客の受付簿が一覧制で合ったものをプライバシーに配慮してカード式を採用することにしてあります。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望を取り入れながら、利用者のペースを乱さないように配慮してゆったりとした生活への支援をしています。		

小樽市 グループホーム つつじ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事をとても楽しみにしており、それに応えるべく職員は味や彩り、季節感を取り入れた食事を提供しています。献立や食材は法人が栄養士の指導のもと、一括指示、提供されますが、職員は食材のアレンジなども考慮して利用者に喜ばれる食事を提供しています。楽しい語らいが利用者や職員の間で飛び交う食事の光景を垣間見ることができました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に最低2度の入浴を目標として支援しています。身体機能の低下を補う座りながらのシャワーも接されています。利用者の希望により職員の遅番勤務体制内での夜間入浴も可能としています。また、近所の温泉での足湯も楽しみのひとつとなっています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できること、できそうなことを楽しみごととして日々行なってもらうように支援がされています。読書、書道、編み物、配膳及び盛り付け、茶碗洗いなど、夏季には畑仕事、草取りを楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームを取り囲むようにして作られた庭や散歩道を利用して日光浴、お花見、紅葉狩りなどお弁当持参でのドライブ、近くの小学校行事の参加、近隣ホテルの催事など、ホームの外での暮らしを支援しています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は掛けていません。夜間は午後8時から翌朝午前6時までは防犯上施錠をしています。1階・2階のユニットではいつでも行き来ができ開放感に満ちています。		

小樽市 グループホーム つつじ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、年1回の避難訓練のほか自主訓練及び夜間を想定した避難訓練も実施されています。これら訓練は隣接するグループホームと協力体制の確認にも役立っており、近隣の施設、ホテルとの協力体制もできています。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の中で栄養士の作る献立表にもとづいており、栄養バランスの富んだ食事の提供がされています。水分は食間などに摂取する水などの量を通常1日1、000ccとして水分摂取の支援が行なわれています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホール为重厚な木製ベンチ、廊下や壁などいたる木の香りがする共用空間で、ゆったり感がホーム全体に広がっています。大きなリビングからは山肌が眼前に迫るなど、自然環境が上手に生かされ四季折々の風景を眺めることができ、利用者の生活に潤いをもたらしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットは持ち込まれ、家族と相談してレイアウトも様ざまになっています。居室内に設置されたインターシュノール（収納庫）は大きくできているため、居室自体は広く感じます。居室の清掃は夜間勤務の男性が担当して昼間に行なわれており、清掃が行き届いた居室で利用者は安心の生活をしています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。